

42. 世界とつながるまちづくり

グローバル化が急速に進む中、名張に住んでいる私たちも「国際社会に生きる日本人である」という意識を持つことが必要です。みなさんの勉強や仕事、生活の場は、これからますます世界へと広がります。そして、名張でも、世界各地から人々を迎え、一緒に生活することもますます増えてくることは間違いありません。そんなとき、まずはふるさとを語れる日本人であることが、世界の人々と豊かな関係を築いていくうえで大切になります。

1. 海外の友だちとの交流

名張市では、1977（昭和52）年に名張ユネスコ協会が発足しました。1986（昭和61）年には、^{かんこく}韓国^{すうおんし}の水原市で^{きよんぎど}韓国ユネスコ京畿道協会と姉妹提携をし、毎年絵画を交流して展示するなど文化交流を続けています。また、「アジア・太平洋青少年環境フォーラム2013」や「2016日韓青少年ウォーターフォーラム」へ中学生が参加し環境問題について議論を交わしました。



▲韓国（京畿道水原市）での交流

小中学校では、外国語活動や外国語（英語）の時間に学んだことを生かして、インターネットを使って海外の学校とつながり、英語で名張のことや学校生活を紹介したり、相手の国や学校のことについて交流したりしています。修学旅行などで日本を訪れた子どもたちと学習や生活をともにしたり、近隣に住む外国の人と、実際に英語を使ってコミュニケーションを図ったりする機会は増えてきています。



▲オーストラリア・ハンティングデール小学校と蔵持小学校の交流



▼インターネットを利用した交流

南中学校3年生とつづが丘小学校6年生が地域の人と協働して開催した「国際交流イベント」

交流イベント【→P65】

2. 国際理解 ～お互いの文化を知り、尊重すること～

歴史や文化、生活習慣などは、国によってさまざまです。しかし、地球規模での平和な社会を維持し、だれもが幸せに暮らすためには、それぞれの文化の違いを尊重することが必要です。そのためにわたしたちは、互いの文化を知り、尊重する寛容な心や態度を身につけることが大切なのです。

名張市で生活する外国の人たちにとって、困っていることはどんなことでしょうか。わたしたちができることはどのようなことでしょうか。



三重県で2016（平成28）年5月26、27日の2日間「伊勢志摩サミット」が開催されました。47都道府県の中で、三重県が選ばれたことはとても誇らしいことです。三重県では、中学生を対象に「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」を実施しており、名張市からも毎年たくさんの中学生在応募しています。

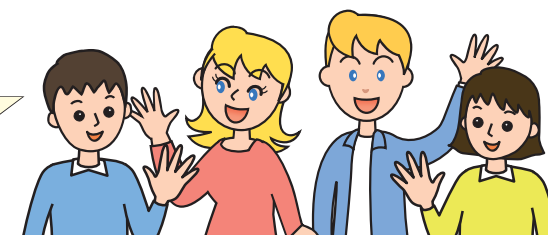
<日本人でも難しい？ごみの分別>

日本では道路交通法により、車両通行帯や歩道等の設置がない場合、車両は左側、歩行者は右側通行と定められています。これは日本中どこでも同じ交通ルールです。人々が安全に、快適に暮らすために、法令や規則などのルールを守ることはとても重要です。



例えば、私たちが生活すると毎日のように排出されるごみ。この家庭から出るごみの分別や処理の仕方は、自治体によってさまざまです。もちろん世界の国々のルールも大きく異なっています。そこで、名張市では、英語、ポルトガル語、韓国語、中国語、スペイン語の5か国語に対応した「ごみの収集日程表」や、「ごみの分け方・出し方」ガイドを作成して、市のホームページにも掲載しています。

学習してきた英語を使って、どんなことができるでしょう。友だちと一緒にできることはないか、考えてみましょう。



伊勢志摩サミット【→P14】